

- 01. I miss your fire
- 02. 愛スタイル
- 03. 少女X
- 04. アップルパイ
- 05. 内緒だよ
- 06. 夢の果てまで
- 07. イケナイコトカイ
- 08. サメと人魚
- 09. じれったい(安全地帯)
- 10. 夏の終りのハーモニー
(井上陽水・安全地帯)
- 11. 戦士の休息(町田義人)
- 12. テクノポリス(YMO)
- 13. ブルース・セッション
- 14. 真夜中の海へ
- 15. あの娘ぼくがロングシュート
決めたらどんな顔するだろう
- 16. ずっと好きだった
- 17. カモンベイビー

ENCORE

- 01. Bass & Drums セッション
- 02. 春、白濁
- 03. 少年ジャンホリー

LIVE REPORT

6/2 sun. 広島クラブアトロ

岡村和義

母性本能直撃の
実力派プレイボーイズ、
スペシャルユニットで見参!

音楽業界では時折、スーパースター同士のスペシャルユニットが誕生する。日本ではCOMPLEX(吉川晃司×布袋寅泰)を筆頭にV2(小室哲哉×YOSHIKI)、井上陽水奥田民生、海外ではデヴィッド・ボウイ×ミック・ジャガーなど。そして2023年末、岡村靖幸×斉藤和義による岡村和義の結成が突如として発表された。岡村ちゃんは1986年、せっちゃん(=斉藤)は1993年にデビュー。お互い還暦前にもかかわらず“ちゃん付け”が似合う母性本能直撃の実力派ミュージシャンだ。開演前から両者の曲がマッシュアップされたSEが流れ、会場は超ハイテンションである。

岡村が萌黄色、斉藤が薄ピンク色のスーツで登場。色のセンスがシブいというかエロい。冒頭から初CD作品『若葉』(5月発売)収録の『I miss your fire』『愛スタイル』と畳み掛ける彼らのコントラストにいきなり釘付けになる。いつものように黙々とギターヒーローぶりを見せつける静の斉藤と、いつものようにせわしなくキメポーズで客席を煽る動の岡村。正反対なのに、だからこそ腹違いの兄弟のように息はピッタリ。ツワモノ同士のキャラの渋滞は鳴りを潜め、自然に2人がなじんでいるのだ。

そこからファンナンバーの『少女X』、斉藤のギターソロが炸裂するロックバラード『アップルパイ』、ブギーなリフがセクシーな『内緒だよ』と続くが、これら全部新曲。一体どれだけ創作意欲が湧き上がっているのだろう。さらに斉藤の楽曲『夢の果てまで』を岡村が、岡村の代表曲『イケナイコトカイ』を斉藤がそれぞれ熱唱。こま



で好き放題の直情をぶちまけておきながら、『サメと人魚』なんてロマンチックな楽曲をサラリと差し出すところが彼らのニクめないところである。

MCもまたいつもの調子。「いえ〜い」と脱力を運んでくる斉藤に、「広島ベイビー」を連呼する岡村。ちなみにピンク・レディーで例えると斉藤がケイちゃんで岡村がミーちゃんだと言うが、そもそもそこに何の裏付けがあるのか。ただ、お互い合わせようとしなくても愛と性春に今も悶える中年男子同士、耳とハートは通底する。そして“カバ〜大会”に突入。『じれったい』『夏の終りのハーモニー』という玉置浩二しばりから、薬師丸ひろ子のデビュー作となった角川映画【野性の証明】主題歌を岡村ピアノ×斉藤ハンドマイクで演奏、そして椅子に座った2人によるアコギ2本のYMO『テクノポリス』! こうなると一緒にスナックにいる気分だ。次なるブルース・セッションは即興で『靖幸のバット〜』なるフレーズが。お約束のエロネタも彼らの音楽的素養と丁々発止のパフォーマンスにかかると最強と最高のアンサンブル、空前絶後の大悦楽にこっちはもうメロメロである。

もはやロックもファンクもポップも関係ない、お互いのヒット曲『あの娘ぼくがロングシュート決めたらどんな顔するだろう』『ずっと好きだった』

をパート分けして歌うと会場は大合唱。岡村がギターを弾き斉藤にマイクを押し付け、その仲睦まじいシーンに嬌声上がる。ラストのナンバー『カモンベイビー』では斉藤がダンス(と言えるのか?)を披露し、2人してエロチックなナゾのコール&レスポンス。昨今のコンプライアンスなんてどこ吹く風、これが岡村和義が叩きつける“不適切にもほどがある”ロック魂だ(そんなことはない...)!

アンコール、斉藤はドラムセットに座り、岡村はベースを弾きながらバンドメンバーを呼び込んだ。リズム隊までできるのか。歌やギターはもちろん、それ以外の音楽的引き出し、プレイアビリティの奥深さが感じられた。1人でも楽しいけれど、2人ならもっと楽しい。異なるやり口と重なるフェロモン、微妙なユーモア。禁断の愛されユニットとして、今回だけで終わることなく10年に一度くらい活動してほしい。

初CD作品

『若葉』
out now!!

